

「いじめ」や「虐待」という言葉に翻弄されないように

編集手帳

読売新聞 10月4日(木)

〈今〉という字を眺めて主人公がつぶやく。「字というのは不思議だな。いくらやさしい字でも、こりゃ変だ、と思って疑い出すと（正しいのか）分からなくなる」。夏目漱石の『門』である◆似た経験をお持ちの方もいるだろう。小欄の場合はこのところ、漢字ではなく使い慣れた単語について、原稿を書きながら“こりゃ変だ”と疑い、国語辞典で語義を確かめることがある◆大津市で中学生が自殺した事件では〈いじめ〉を辞書で引いた。「弱いものに乱暴したり意地悪をしたりすること」。男子生徒が受けていたとされる連日の暴行は、〈いじめ〉と呼んで済むまい。犯罪だろう◆きのうは〈虐待〉を引いた。「ひどい扱い、むごい扱いをすること」とある。広島県府中町の小学5年生、堀内唯真（ゆま）さん（11）は、母親（28）にゴルフの素振り道具で頭部の骨が碎けるまで何度も殴られて死亡したという。〈虐待〉の語義を超えている◆「しつけ」だったと、母親は供述している。何を言う。日本製の漢字（国字）で「しつけ」は「躾」と書く。わが子の美しい身体をアザだらけにする「しつけ」があったまるか。

もつともです。言葉は正しく。

＜暴行・強要＞同級生を全裸に、中3男子2人逮捕 滋賀県警

毎日新聞 10月3日(水)

同級生の服を無理やり脱がせて全裸にしたとして、滋賀県警少年課と彦根署は2日、同県彦根市立中学3年の男子生徒2人（いずれも14歳）を、暴行と強要の容疑で逮捕した。逮捕容疑は、2人は同級生数人と共謀し、先月19日、中学の昼休み時間に同級生の男子生徒（15）を空き教室に連れ込み、カッターシャツを無理やり脱がせた。さらにズボンや下着を自分で脱ぐよう要求し、引っ張って脱がせて全裸にしたとされる。2人とも容疑を認めているという。

翌日の午前中、被害を受けた生徒の口数が少なく、元気がない様子だったため、担任が本人から聞き取り、事態が判明した。学校が彦根署に相談し、被害生徒は同月28日、同署に被害届を出した。県警は他の同級生からも事情を聴いている。

市教委によると、学校は事件の発覚後、被害生徒と暴行したとされる生徒から聞き取りを実施した。被害生徒への別の加害行為や、他の生徒への加害行為は確認できなかったという。10月1日には全校生徒を対象にアンケートを行ったが、同様の結果だった。市教委の担当者は「本人はいじめられたと言っていないが、内容からするといじめの疑いがあり、再発防止に向けて調査中。」学校は迅速に対応に当たったのでは」としている。前川恒広教育長は「事件は非常に残念。今後しっかり検証して再発防止に努めたい」とのコメントを出した。【村山豪】

暴行の事実があるのに、「いじめの疑いがある」というのは意味不明。「暴行」よりも「いじめ」の方が重大と捉えている？ いじめは許せない、ので、いじめじゃなくてもよかった、みたいなコメント？

いじめ問題に関する緊急アピール 東京都教育委員会 10月4日(木)

いじめを決して許さず、社会全体で子供たちを守るために

＜保護者の皆さんへ＞子供向けメッセージ「いじめとどう向き合いますか」を素材にして、子供と日頃からよく話し、互いに心を通じ合うようにしてください。そのために、子供がいつでも相談できるような温かい雰囲気を家庭の中に築いてください。話をする子供の様子をよく見たり、子供の思いや考えを感じ取ったりすることなどで、子供の心の変化に気付いてください。そして、保護者にとって、子供がかけがえのない存在であるということを示し、「困ったこと、苦しいことがあったら、小さいことでも話してほしい。」「わたしが必ずあなたを守る。」といった言葉にして、繰り返し伝えてください。保護者に愛されているという実感は、子供に苦難を乗り越える力や守られているという安心感を与えます。もしも、子供の話から、自分の子供に限らずいじめの気配を感じた場合は、まだ確証がつかめない段階であっても、学校にためらわずに御相談ください。また、東京都いじめ相談ホットラインも御活用ください。

＜全ての先生へ＞子供向けメッセージ「いじめとどう向き合いますか」を子供たちと一緒に読んでください。そして、先生自身の考えを子供たちに話してください。子供たちにも（以下略）

都教委の立場もご理解ください。

正論「まずは校内犯罪の撲滅に動け」

精神科医 国際医療福祉大学教授 和田 秀樹 産経新聞 7 月 31 日(火)

大津市の中学生の自殺は、いじめの果ての事件として、マスコミや世間を驚かせている。ただ、精神科医の立場としては、今回の悲劇をいじめ自殺事件と騒ぎ立てることには抵抗かおる。

いじめ自殺と捉えるは誤り

一つには、報道が自殺を誘発するという問題がある。被暗示性が強い青少年にはその影響が強い。「いじめられて自殺するのは当たり前心理」「死ねば分かってもらえる」という誤ったメッセージを伝えて、子供の自殺を大幅に増やしかねないからだ。

現実には、東京都中野区の中学生自殺事件が大報道された昭和 61 年には、小中学生の自殺は前年より 5 割以上も多くなり、報道が静まった翌年には 60 年以下の水準に戻った。愛知県の中学生自殺事件が起きた平成 6 年には、前年より 8 割も自殺が増えている。

だが、それ以上に問題なのは、中野、愛知、そして大津の事件はいずれも、いじめではなく立派な校内犯罪だという点である。逆にいうと、大々的報道による誘発でもない限り、犯罪の領域に達していない「いじめ」では、子供の自殺にまではまず至らないとさえいえるのではないか。

私も以前、テレビ番組に出演した際に、少女が受けたいじめの内容が集団レイプだったと聞いて戦慄したことがある。いじめなどという言葉を用いて、校内犯罪を、冷やかしの仲間外れなどと同列に扱うことは、教育上もあってはならないのである。

いじめを幅広く取ることで、教育現場にも子供たちにも混乱が生じていることは確かだろう。犯罪を除く狭義のいじめについては、それでも子供のトラウマになり得るから撲滅すべきだという意見もある。一方で、子供が、人前や仲間内で言うてはいけないうことを言い、やってはいけないうことをやっした際に仲間外れにされたりし、それに懲りて社会性を身につけるという人もいる。実社会に出てからも、仲間外れや悪口は珍しいことではないので、子供のうちに耐性や対処法を身につけさせるべきだという考えもある。

勉学の間守るため警察介入も

どれが正解か精神科医の私にも断言できないし、状況次第で違ってくるということもあるだろう。だが、犯罪性のあるいじめを放置すべきでないという点に異論を挟む人は少ないだろう。

捨て置かないことによる教育的効果もある。子供であっても、人にけがをさせれば傷害事件（現在の考え方では、精神的な後遺症も含まれる）であるし、カネを巻き上げれば恐喝事件である。ストーカーのような付きまとい行為も十分、犯罪に相当する。

こういう被害に遭ったら、警察に、あるいは教師を通し警察に訴え出るべきだと教えるのは、立派な法律教育となる。逆に、校内で犯罪的な行為が見過ごされると、大人になって暴力団絡みの犯罪などに泣き寝入りする習性を植え付けてしまいかねない。

いじめられたら逃げた方がいいといった議論も少なくない。だが、犯罪者並みの加害児童・生徒が堂々と学校に通い、被害児童・生徒が学校から排除されるのはどう考えてもおかしい。警察により犯罪被害から守られるのは国民固有の権利である。民事不介入などとして、警察が取り締まらなかった時期に暴力団が勢力を拡大させたのは歴史的事実である。学校では真面目に勉強する子供の権利が守られるというのは、世界中のコンセンサスである。米国で、学校での犯罪的な行為に対する警察の介入を当然とした途端に、校内暴力が激減したという話は、その意味で示唆的である。

教師は本業に精を出すべし

逆に、犯罪的ないじめにまで、捜査権も処罰権もない教師が対応しなければならないのなら、彼らの精神的なストレスは増すだろうし、教師の本分である学力の向上や子供へのしつけもおろそかになりかねない。警察に任せるべきことは任せて、教師は本業に精を出すべきなのである。

それに、いくら校内であっても犯人を隠匿するのは、とりわけ罰金以上の処罰に当たる罪を犯したことがはっきりしている人間を校内だからといって隠匿するのは、立派な犯罪である。校内で子供が人を殺し、それを教師たちで隠匿したら罪になることぐらい、誰でも納得できるだろう。傷害、恐喝事件であっても、それは同じはずである。教師が犯人隠匿まがいの行為を犯していることが子供たちに知られたら、教育者としてやっていけないのだろうか。

集団精神医学の考え方では、除け者を作って仲間であとまろうとしたり、悪者を作って自分たちが正義だと思おうとしたりするということは、人間が集団を形成する際の普遍的な心理だとされる。いじめの撲滅には努力すべきだが、それは現実には容易ではない、と認めることも肝要である。校内犯罪の撲滅をその第一歩とする方が、むしろ、教師の負担を軽減できて、子供たちのストレスも緩和できるのではないだろうか。